

シノハラナガツネ 篠原長經 通稱織部。長次の嫡男。慶安二年父の歿後本隊の内五千石を襲ぎ、人持組に列し、萬治二年與力支配役となり、寺社奉行を兼ね、寛文三年旗奉行に遷り、延寶六年二月廿三日歿した。

シノハラナガヨシ 篠原長良 通稱大學。六郎左衛門。父長次の歿後本隊の内千石を賜はつて別に家を成し、寛文中御馬奉行となり、大小將番頭に轉じ、御馬廻頭に進み、元祿二年薨め、同年歿した。

シノハラノタカヒ 篠原の戦 壽永二年五月一日俱利伽羅山の戦に大勝を得た木曾義仲の軍は、漸く追撃戦に移つて、六月一日平軍の保守した安宅に迫つた。安宅は梯川の下流が海に朝する所であるから、平軍の防禦陣地は左岸であつたらう。義仲、林六郎光明に命じ、鞍馬を放つて水の深淺を測らしめ、その徒涉に堪へるを知つて、諸軍に進撃せしめた。長門本平家物語によれば、この際光明は平有國の陣に突入し、その甥野宮八郎光宗は有國を射て首級を取つたとある。既にして平軍安宅を捨て、源軍はこれを並松・成合等に驅逐したが、平軍の勇者或は馬首を廻らして逆撃するも、多く敵の獲るところとなつた。備中の入妖尾太郎兼康も亦加賀の倉光三郎成澄に生擒せられ、齋藤別當實盛が手塚太郎光盛に討たれた如きはそれである。實盛戦死の所は、平家物語に篠原であると記し、源平盛衰記は成合池附近として、その討死した後平軍が篠原に退却した如き筆路である。敗残の平軍は、是から極楽林・小野寺林・須河林・福田・熊坂等の江沼郡各地を経て、終に京都に奔竄した。

シノブ 忍 鳳至郡南志見郷に屬する部落。シバガキ 柴垣 羽咋郡甘田保に屬する部落。能登名跡志に、『芝垣村は一宮より十四五町に在り。茶屋助左衛門とて古き百姓あり。昔芝原將監といひし郷士有しとて、郭跡は南の山にあり。鎗中將監といへり。至つて富貴にして、佛神信仰の人なり。色々奇特ありて、常に山水の風景を好み、領内に近江八景を移し、又は内外の伊勢の神垣を勸請せし所とて、東の山中に所々あり。』とある。

シバガトウゲ 芝ヶ峠 鳳至郡北七海に在る峠。能登誌に、『七海村より芝ヶ峠とて古戰場あり。此所を越れば穴水なり。』とある。

シバガタウゲシヨウ 芝ヶ峠城 鳳至郡北七海に在つた。越登賀三州志故墟考に、穴水の東七海村領中居往來の傍に城・鼻城跡があり、一名を芝ヶ峠といふ。穴水の磐であらうとある。

シバキ 柴木 石川郡林郷に屬する部落。加賀古跡考に、此の村の百姓清右衛門といふものゝ家に、古くから聖徳太子二歳の像といふを傳へてゐることが書かれる。この像は今獨立の堂に安置せられてゐる。

シバキキナイ 芝木喜内 尊は定經。本多氏に仕へ徒組に班してゐた。明治二年その主本多政均の暗殺せられるや、同志と共に復讐を謀り、古物商となつて自ら頼みする所あり、四年十一月廿四日藤江松三郎と共に仇敵の一人多賀賢三郎を江州長濱驛に討ち、五年十一月四日自裁を命ぜられた。享年三十。

シバゴゼン 芝御前 加賀藩主第三代前田利常の女熊姫は、會津侯保科正經に嫁して、芝御前と呼ばれた。

シバゴゼン 芝御前 加賀藩主第十代前田重政の女熊姫は、會津侯保科容詮に嫁し、芝御前と呼ばれた。

シハスギツネ 師走狐 藩政時代の歳末に來た藤内の物賣ひで、白布を以て全身を包み、尾を垂れ、狐の假面を被り、『來たわいな來たわいな。師走狐が飛んで來た。一文賣へば來年までこんく。』と唱へるものであつた。

シバタウゲ 柴峠 鹿島郡石動山から荒山口に懸る間に大柴峠・小柴峠といふ坂路がある。越登賀三州志故墟考荒山の條に、『此の山の腰通り、芹川村より越中道なり。是を荒山越といふ。此の荒山より北の方へ高低三十町許り登れば石動山なり。芝峠といふも此の間なり。』と記すものこれである。天正十年七月温井景隆・三宅長盛が石動山の衆徒と通じて要害を荒山に構へた時、前田利家は芝峠に於いて敵と戦ひ、温井・三宅は荒山の壘に遁入したといふ。↓アラヤマカツセン 荒山合戦。

シバタエモリノスケ 柴田柄漏助 ↓シユドウ 衆道。

シバタカツイヘ 柴田勝家 天正三年八月織田信長が岐阜を發して北陸を征した時、柴田勝家は諸將と共に越前河野浦に上陸し、沿道の壘を陥れて加賀に入り、江・能二郡を攻略した。九月信長は豊原寺から北庄に移り、勝家をしてこゝに鎮せしめ、佐々成政・前田利家・不破光治を府中に置いてその與力たらしめた。四年秋加賀の一揆等、大聖寺城の戸を遣はして廣正に代らしめ、又勝家をして之

に力を合はさしめた。因つて勝家は盛政と共に、一旦敵手に委した敷地天神山を奪還し、又動橋・御幸塚の壘を抜いた。五年信長再征の軍を出し、勝家は諸將と共に本折・小松・安宅を襲ぎ、手取川を超えて進んだが、この時七尾城既に上杉謙信の爲に陥れられて、救援の機を失つたを以て、諸軍歸路に就き、勝家は十月三日北庄に納馬した。八年閏三月本願寺顯如は信長と媾和したが、同月勝家は加賀に進撃し、佐久間盛政等をして金澤御坊を屠らしめ、十月更に殘黨坪坂新五郎・徳田小次郎を江沼郡松山に掃蕩し、石川郡の若林長門、能美郡鳥越の鈴木出羽等を誘殺し、十一月巨魁十九名の首級を安土に送つた。次いで十年六月本能寺の變に信長の弑せられるや、勝家は信孝を擁立せんとして羽柴秀吉と隙を生じ、十一年四月柳瀬の戦に敗退し、廿四日北庄に於いて自凡した。時に年五十四。

シバタセイアン 柴田躰庵 ↓コマキセイアン 駒井躰庵。

シバノヨシヒロ 柴野美啓 通稱優次郎、方中と號した。藩士大橋作之進の家人梅澤圓左衛門の末子で、文政八年長氏の家士柴野吉左衛門の後を繼ぎ、七人扶持を受けた。美啓地理古蹟に精しく、龜の尾の記を著し、又宮井安泰に測遠術を學び、算學に通じて門人が多かつた。然るに性剛毅細故に拘泥せず、爲に罪を獲て天保十二年七月禁禁となり、十二月赦免の後改易せられ、その祖母に二人扶持を給せられた。弘化四年八月八日歿。

シバラジヨウ 芝原城 羽咋郡柴垣に在つた。一に長峰城ともいふ。越登賀三州志故墟考に芝原七郎といふ者こゝに居たと傳へる